

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500780		
法人名	医療法人 橋口整形外科医院		
事業所名	グループホーム平の庄(壱番館)		
所在地	大村市宮小路1丁目291-3		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果確定日	平成26年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosvoCd=4270500780-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム平の庄は、畑や芝生の庭があります。平屋造りで、施設内もスペースを広く取っておりゆっくり、ゆったりと過ごして頂けます。玄関から入ると天窗があり差し込む光で明るい雰囲気を作っています。中央は広いスペースがあり窓からの光が差し込み開放的な明るい雰囲気です。レクリエーションにも力を入れており、月曜日は音楽レクリエーション、水曜日と木曜日は介護予防体操を行っています。また、国道沿いにあり、ご家族の訪問にも便利なところです。「その人らしく、ゆっくり、ゆったり」を理念にその人らしい生活が送れるように職員一同努めて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭も広く、施設も余裕があるつくりで広々としており、窓も大きくとても明るく、「その人らしく、ゆっくり、ゆったり」という理念が反映されている。掃除がよく行き届いて、清潔感がある施設である。その中で職員が生き生きと働いており、明るく、気持ちのいい声が飛び交っている。共有スペースは、絵や利用者の作品の展示など居心地のいい空間作りに取り組んでいる。介護予防体操や口腔ケアなど「予防」を意識することにより、利用者の身体能力の維持・向上にも積極的に取り組んでいる施設であり、今後地域の介護拠点として期待される施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしくゆっくりゆったりと」について玄関に掲示し、入居者様のこれまでの生活観や人生観を聞き、皆で話し合い理念に沿うことができるように努めている。	月1度のミーティング時に、理念に基づいたケアについて検討を重ねている。普段から何事にも「ゆっくりいこう」ということを心がけケアに取り組んでいる。玄関にも掲示しており、入社時の面接でしっかりと職員に周知されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内から行事の案内があり、参加できる行事は見学など行ったり、回覧板を一緒に持っていたり町内の方々が踊りや、地域の合唱団の子供達が訪問に来てくれたりしている。目の前の畑をご近所の方々が耕しており、そこを散歩したり、話をしたりしている。	施設の前の畑まで散歩したり、回覧板を持っていくなど、日常的な隣近所との交流もできており、運営推進会議にも地域の方が参加されている。大村合唱団やボランティアの訪問、敬老会への参加など盛んに交流が実施されている。地元との結びつきが強いため、個人情報取り扱いに配慮がされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で参加して下さっている地域住民の方や民生員の方々を通して話をしているが、今のところ活かすところまでできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、意見を聞いたりしてサービス向上に活かしている。	以前の会議は介護内容は報告という形が多かったが、意見を出しやすいように投げかけを行うように努めている。以前より意見や質問が出るようになってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加して下さったりして大村市の最新情報や電話連絡など行っている。	大村市長寿課や包括支援センターと常に連絡を取り合っている。連絡会への参加やメールの活用も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は9時～21時まで開放している。身体拘束をしないケアを全員で話し合いをしながらケアに努めている。	月に一度のユニットカンファレンスで拘束を行わないケアについて検討し取り組みを行っている。ケアについての説明は随時家族に電話で行っている。日常的には管理者が指導、2ユニット管理者での話し合い、施設長への相談とシステムができています。また、研修会にも参加し内部研修にて周知徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、職員同士についても言葉による虐待を含めて気になる言動、行動がある場合はお互いに注意し合うように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年ではないが、権利擁護について勉強会を行ったが、今のところ必要と考えられる方がいないため、活用できるような話し合いを設けたことがない。また、これらの制度について利用者、家族等に周知を図るところまでは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約を行う場合は、時間を確保し、ご家族から入居者様の状況など話を聞きながら、契約書の説明と確認を行いコミュニケーションを取るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議のメンバーにご家族にも参加していただくなどして、ご家族等の意見に耳を傾けるように努め、推進会議を通して外部の方にも伝えられたり、意見を聞くように努めている。	面会に来られた時には必ず最近の様子を報告し想いを聞き取るようにしている。面会が少ない場合は電話で報告したり、来てもらうきっかけを作り直接話ができるように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回第二土曜日にカンファレンスを行い、情報の共有や職員の意見等を聞く場を設けて話を聞くように努めている。	スタッフの意見を月1回のカンファレンスで取り上げ、施設長へ相談する。施設長は直接相談しやすい雰囲気づくりを行っている。意見の内容によっては施設長からカンファレンスで検討をするように管理者へ戻されたりと意見のやり取りができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況については、貢献していただいた分給与や賞与に反映できるよう努めたり、希望休みをなるべく考慮し働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回第二土曜日にカンファレンス時に内部研修に取り組み、社外研修についても受講の話をして参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、職員には相互実習に積極的に参加していただき、同業者との交流する機会や各駅停車(新人研修)のネットワークに参加し、同業者との関わりを持っていただくように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの相談者は、ほとんどが家族だが、本人の思いや困ったことをたずねる様になっている。定期的に連絡をし入居が確定すると病院施設や自宅などへ訪問し本人との面会を通して話を聞き把握に努めなじみの関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時より相談者の今の思いや要望などを聞き経過として記録している。また、定期的に連絡し現状把握に努めたり信頼関係が築けるよう話を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者、本人からの話を元に必要に応じたサービスや事業所の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していく中で昔からの知恵知識を聞いて参考にしたり、調理の準備なども一緒におこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限をしておらず、共に食事をしたり部屋で過ごせるように環境をつくったり、ご家族と外出や外泊が出来るようにしている。面会時はご本人の状態や出来事をご家族に話をし共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行っていた美容室やお店、自宅への外出を行ったり、親戚などの身内だけではなく、知り合いの方などの面会も支援している。	家族に限らず、知人や前職の面会も多く、面会時の様子を家族に報告を行っている。家族へ毎月写真入のお便りを送付しており、施設での生活が伝わるような工夫をしている。かかりつけ医やお墓参りなどは基本的に家族に依頼し、主治医からの説明を直接家族が聞く機会を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行などにより入居者同士のコミュニケーションがとりにくくなっているが、スタッフが橋渡しとなり孤立しないように支援したり悪化予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去前より本人またはご家族と連絡をとり、相談に応じフォローしている。退去時、再入居の申込みを提案したり、退去後時折連絡をし話を聞いたり、ご本人が外出時立ち寄ってくださるように話したりしてその後のフォローも行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りを中心にご家族からも伺う。本人より聞き取ることが難しい場合は、声かけによる小さな表情より読み取ったりスタッフ間で意見を出し合い本人の立場になって考えたりしながら検討しケアに活かしている。	入居時に利用者本人のやりたいことについて聞き取りを行っている。記録はされていないが、職員は把握しており、介護計画には本人や家族の意向も記されている。日頃の生活の中からも本人の希望や意向について、行動や表情から汲み取るよう心がけている。	入居時に聞き取りを行い、本人や家族の希望や意向を聞き取っているが、記録用紙に記載されていない。直接、介護計画に落とし込んでいるとのことであるが、いくつかある様式を整備し、記録を残せるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を用紙に記入するなどして把握に努めている。後で分かったことについても追記して記録に書き留めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を共にする中で表情・行動・嗜好等を観察したり、気づきをスタッフ間で申し送りを行い全員の共有の情報としてノートを活用しています。今までの生活で培った事や余暇活動での出来ることの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来庄時希望など聞き取ったり、生活の中での気づき、現状に沿ったケアについての改善点などを話し合い作成している。心身の状況の変化があるときや新たな要望がある際はその都度見直しを行っている。	それぞれのユニットの管理者が介護計画を立て、それを介護支援専門員が作成している。見直しは6ヶ月に1度行い、利用者に変化があった場合にはその都度、対応している。作成された計画は、ユニットカンファレンスや全体会議において話し合い、職員の意見やアイデアを反映させている。利用者の日頃の気付きについては、申し送りノートに記入し全職員が把握し、計画の見直しに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌は、バイタル・食事・排泄などを記入。個人のカルテは一日の様子や変化などを記入。スタッフ間でも申し送りノートを活用し情報共有を図る。個人ノートには受診・往診時の内容を記入しており、記録を参考にケアに活かしてケアプランにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族とご相談しながら、臨機応変に病院受診や日用品の買い物を職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族とご相談しながら、行きつけの美容室や今までのかかりつけの病院、なじみのお店への利用を積極的に提案して外出し楽しむことができるように支援している。また、地域の消防軍団の方にも訓練時一緒に参加・協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの係りつけ医やご本人及びご家族等の希望を聞き決めていただいたり、往診や受診どちらかにされるかなどの希望や選択肢がない場合は、施設の近くの医院を紹介。主治医へは情報提供を行い適切な医療が受けられるよう努めている。また、必要に応じて認知症専門医への受診や眼科、整形外科、皮膚科、歯科への受診もご家族との相談のもと行っている。	利用者はそれまでのかかりつけ医の通院、往診を受けている。希望があれば、近くの病院の紹介も行っている。母体が病院であることから、夜間の緊急時にも院長への連絡、相談ができる体制が整っている。通院は基本的に家族が行っているが、希望があれば、通院の介助にも対応している。その場合には病院受診記録に記入し、家族の来所時に報告を行い、緊急の場合には電話で連絡、報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、入居者の健康状態の把握に努めている。個人ノートの作成、さらに申し送りも活用しスタッフ全員が共有して適切な医療やケアを受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には詳細な情報を提供し、入院中も医療機関と密に連絡を取り、病状、ADLの把握に努めている。定期受診時には、主治医へ電話や書面、必要時にはスタッフが入居者と付き添い報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めにかかりつけ医とご家族の意向を確認し、事業所として現状どこまでの支援ができるか検討し、主治医やご家族へ説明しながらその都度方針を決め、職員全体で話し合い方針を共有するように努めている。	これまでに看取りの事例もあり、事業所として看取りの受け入れ体制はできている。家族に説明、確認をとるタイミングが困難で、現在は重度化したと主治医が判断した時点で医師からの説明を行い、家族に選択してもらっている。	家族の希望を聞くタイミングが困難であることから、事業所としても早めの対応が必要と考えている。今後スムーズに話ができるよう、家族へ早めの説明(例えば、入居時など)をし、重度化した場合には再度、確認するような取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し緊急時の対応もすぐ行動できるようにしている。スタッフは、管理者、看護師へ報告し、主治医へ連絡、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練時に勉強会の実施や入居者・地域住民、スタッフ、消防職員、地域の消防軍団の方に参加していただき訓練を行うように取り組んでいる。また、防災のチェック表を作成し毎日点検している。	夜間を想定した消防訓練、避難訓練を年に2回行っている。消防団や地域の方々も見学に参加するなど地域との協力体制もできており、訓練前には自治体の回覧でチラシの配布も行っている。隣の公民館が避難場所となっており、事業所も避難場所として開放することができる。	地域との協力体制はできており、災害時には避難場所として開放できているが、毛布などの準備はあるが飲料水や食品の備蓄が不十分である。日頃の備えが必要と思われることから今後、災害に備えた備品の準備の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であることを念頭におき対応するように努め、お部屋に入るときには一言声かけを行う、ケアの前に声かけをするなどプライバシーの確保を意識して取り組むようにしている。	利用者への言葉遣いに気をつけ、職員間でも注意し合うように心がけている。プライバシーにも配慮し、お風呂では他の人に見られないよう体にタオルを掛けたり、トイレへの声かけも周りにわからないようにしている。特に個人情報の取り扱いに注意し家族以外の面会の問い合わせ等には家族に確認を取るようになっている。また、職員は外部の接遇の研修に参加した後、内部で全職員に内容の報告している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中でどちらがいいか質問したりして好きなものや希望のものを選ぶように働きかけている。自己決定が難しい入居者の方には日常の様子や今までの生活歴を考えスタッフ間やご家族との話し合いで決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる日課は設定しているが、体調や気分など尊重し対応している。友人・家族の面会時には一緒にお部屋で過ごして頂いたり、ご希望がある場合はお食事と一緒に食べられたりご家族との外出も希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の利用、ご家族とともになじみの美容院へ出かけられる方もおられる。本人好みの色やファッションを重視し、モーニングケア時は必ず個人用の乳液を使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしの根切りを一緒に行ったり、季節に合った旬の食べ物を提供し、好きな食べ物を取り入れ献立に活かしている。個人に合った食事形態を提供している。また、スタッフも一緒に食事を食べ会話を楽しんでいる。	献立は、1週間ごとに立て、調理担当がまとめて調理を行っているが刻みなどは各ユニットで行っている。利用者の嗜好は入居時に聞き取りをし、また食事時にも様子を見て好き嫌いを把握するよう努め、代替の物で対応している。食事は職員と一緒に取り、誕生日には本人の希望のメニューを提供するなど楽しむ工夫がなされている。また、毎日の口腔ケアを行った結果、ペーストから刻み食へ改善した例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌、カルテに記入し、スタッフ全員が把握できるようにしている。個人に合った食事形態を提供し、食器やスプーンなどもその方が食べやすいように工夫してどうやったら食べていただけるかその方に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力に応じた支援を行い、またスタッフの勉強会も開いている。義歯洗浄剤を使用。定期の歯科往診または受診をしている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の訴え時その都度トイレへ誘導しているが、訴えができない方について朝・昼・夕の食前、食後に声かけを行いトイレ誘導を行い、トイレ内での排泄を促している。夜間オムツ使用されている方も日中はリハビリパンツへ交換している。	訴えが出来ない利用者においては、夜間の2時間おきに体位を変える時に、睡眠を妨げないようにオムツの交換を行っているが、日中は布パンツやリハビリパンツを使用している。排泄の訴え時だけでなく、それぞれの利用者の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、毎朝オリゴ糖入りの牛乳を提供したりその方がもようしやすい食べ物を日常探りご家族と相談したり、野菜中心を心がけて提供している。また、緩下剤については主治医の指示のもと服用し十分な水分摂取を心がけ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタル測定を見て体調などを考慮して入浴している。体調が優れない。入りたくない方については、曜日、時間帯を変更したり清拭などで個別に対応している。	入浴日は週3回であるが、希望や必要があれば、シャワー浴や足浴も対応している。入浴拒否が続くときは声のかけ方を工夫したり、何度か誘ってみるなどの工夫をしている。足浴時に入浴剤を入れて楽しむことも行っている。なるべく、羞恥心を考慮してお風呂の中での介助は女性職員で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に、日中はレクリエーションなどに参加していただくなど夜間十分な睡眠がとれるように支援している。また夜間眠れない方は眠れるまで職員と談笑したりホットミルク等を提供するなどして安心して眠れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの薬の全体把握は、薬手帳と服薬一覧を個人ごとにまとめていつでも目的や用法について確認できるようにし、飲み忘れや誤薬がないよう付箋箱を利用し日付と氏名を記入している。またいつまで残薬があるかホワイトボードで日付管理をし、毎日朝・昼・夕、食間、寝る前など服用する毎に専用箱にまとめるなど工夫している。ご本人の状態の経過や変化等に関する日常の記録は個人別のノートを利用しそれをもとに主治医に報告している。受診・往診記録も個別の用紙に記入し、変更事項についてもその都度目的や副作用、用法や用量について記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、料理の下ごしらえなどスタッフと一緒にご自分で出来る方はなるべくして頂き暮らしの中での役割を見つけていただくなど自分らしく暮らせるよう支援し、月曜日は音楽レクリエーション・水・金曜日には予防体操を取入れ、他歌やトランプ、折り紙などのレクリエーションも楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族へ外出や外泊の希望にそって出かけられるよう支援に努めている。また、自宅への外出やドライブの提案をし支援したり、お墓参りにご家族と出かけられる入居者様もおられる。天気がよく体調がいい日は外庭でおやつを食べ歌のレクリエーション、日光浴を楽しみ、ショッピングセンターへの買い物・外食を支援したり、花見へ出かけることも支援している。	ドライブを兼ねてお花見や空港の見学、ショッピングや外食に出かけている。お天気の良い日には、広い庭に出てみんなでおやつを食べるなどの支援も行っている。日々の個別の外出は要望があれば一緒に近所に買い物に出かけたり、家族の協力で行きつけの美容院やお墓参りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している入居者様もおられる。好きなものを一緒に買いに出かけるときは、お預かりしている預かり金を手渡し、支払いをして頂くなど支援している。管理している預り金については、定期的にご家族に報・連・相し領収書を渡して現金出納帳の確認をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やお孫さんなどからハガキが送ってきた時は、フライパシもあるので行き過ぎないように一緒に声かけしながらコミュニケーションがとれるよう支援している。電話で会話が難しい方についてはスタッフが間に入ってやり取りを行っている。年賀状は毎年施設から1人1人の入居者様に出したりして日本の習慣などの支援も心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人の居室の前には月毎に季節を感じられるように飾り付けを行い、共用の空間にも花を飾ったり、お雛様や節句、月見など季節や習慣を大事に心掛け入居者様と出来るだけ一緒に準備して支援し、食事も旬のものや好きな食べ物昔食べていたものを取り入れるよう心掛けている。	利用者の作品の絵や折り紙などで季節感を取り入れた飾り付けを工夫している。畳のスペースは生花が生けてあり、どちらのユニットの利用者も使える共用のくつろげる空間となっている。広々とした施設内は、掃除も行き届いており、空調設備も整い、加湿器も備え、匂いがこもらないように空気の入替えもしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は、皆さんで食事をしたりテレビをみたりとゆっくり過ごす時間が多いため、出来るだけ気の合う方同士の席になるよう全体の様子を見ながら配慮している。ゆっくり過ごしていただけるように食卓と同じ空間の中に一人掛けのリクライニングソファもあり利用している。また、共有スペースにもソファや円卓もありそこで新聞を読んだりする方や大きなテレビでDVDを視聴したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に今まで使っていた馴染みの物を持ってきていただくように話をしているため、部屋も今まで居た場所の雰囲気を意識したり、好きな色や好きなものなどもご家族とご本人に相談しながら過ごしやすい環境に取り組んでいる。	利用者が、自分の使い慣れた家具や家族の写真、お人形などを飾り、なるべく、自宅に近い空間となるよう工夫している。また、仏壇やテレビなどの持ち込みにも対応し、利用者が心地よく暮らせるような配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示が絵になっている。またトイレと別に文字で表示したり、車椅子からベッドへベッドから車椅子へ移る際に立ちやすいようにベッドにバーを取り付けたり足や手を打たないようにカバーを付けるなどの工夫も心掛けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500780		
法人名	医療法人 橋口整形外科医院		
事業所名	グループホーム平の庄(貳番館)		
所在地	大村市宮小路1丁目291-3		
自己評価作成日	平成26年1月10日	公表結果確定日	平成26年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosovoCd=4270500780-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム平の庄は、畑や芝生の庭があります。平屋造りで、施設内もスペースを広く取っておりゆっくり、ゆったりと過ごして頂けます。玄関から入ると天窓があり差し込む光で明るい雰囲気を作っています。中央は広いスペースがあり窓からの光が差し込み開放的な明るい雰囲気です。レクリエーションにも力を入れており、月曜日は音楽レクリエーション、水曜日と木曜日は介護予防体操を行っています。また、国道沿いにあり、ご家族の訪問にも便利なところです。「その人らしく、ゆっくり、ゆったり」を理念にその人らしい生活が送れるように職員一同努めて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしくゆっくりゆったりと」について玄関に掲示し、入居者様の今までの生活観や人生観を聞き、皆で話し合い理念に沿うことができるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内から行事の案内があり、参加できる行事は見学など行ったり、回覧板と一緒に持っていたり町内の方々が踊りや、地域の合唱団の子供達が訪問に来てくれたりしている。目の前の畑をご近所の方々が耕しており、そこを散歩したり、話をしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で参加して下さっている地域住民の方や民生員の方々を通して話をしているが、今のところ活かすところまでできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、意見を聞いたりしてサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加して下さったりして大村市の最新情報や電話連絡など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は9時～21時まで開放している。身体拘束をしないケアを全員で話し合いをしながらケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、職員同士についても言葉による虐待を含めて気になる言動、行動がある場合はお互いに注意し合うように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年ではないが、権利擁護について勉強会を行ったが、今のところ必要と考えられる方がいないため、活用できるような話し合いを設けたことがない。また、これらの制度について利用者、家族等に周知を図るところまでは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約を行う場合は、時間を確保し、ご家族から入居者様の状況など話を聞きながら、契約書の説明と確認を行いコミュニケーションを取るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議のメンバーにご家族にも参加していただくなどして、ご家族等の意見に耳を傾けるように努め、推進会議を通して外部の方にも伝えられたり、意見を聞くように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回第二土曜日にカンファレンスを行い、情報の共有や職員の意見等を聞く場を設けて話を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況については、貢献していただいた分給与や賞与に反映できるよう努めたり、希望休みをなるべく考慮し働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回第二土曜日にカンファレンス時に内部研修に取り組み、社外研修についても受講の話をして参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、職員には相互実習に積極的に参加していただき、同業者との交流する機会や各駅停車(新人研修)のネットワークに参加し、同業者との関わりを持っていただくように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、ご本人にも見学して頂き話を進めている。また入所確定後にはこちらから訪問を行い普段生活している場でのリラックスした状態でのコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や見学など初回の相談時から困っていることや不安に思っていることを聴き、これまでのサービス利用状況など経緯についてもゆっくり聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のニーズを聴き早急な対応が必要な場合は柔軟に対応し、必要に応じて地域包括センターや他のサービス事業所を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	疎通が図りづらい利用者は多いが、その場、その時の表情や気持ちを汲み取り、声かけや場面づくりを行っている。また、家事が可能な利用者には出来る範囲のことをお願いし、互いに協働しあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には現状報告を行い、ご家族様も情報の共有が出来るように努め、また病院を受診した際なども速やかに電話連絡をし共に支えている関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人や友人等、お互いの訪問や連絡が出来るよう支援し、交流を立つことがないよう継続的な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席に気を配り、食事の際は職員も一緒に食べて多くの会話ができるよう努めている。また、レクレーション時などにもスタッフが間に入り、孤立しないよう働きかけ人間関係の悪化予防、改善に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居先の関係者に対して、本人の情報提供を伝え出来る限り相談・支援に努めている。また、プライバシーや個人情報など配慮しながら必要に応じてその後のご家族の相談やフォローなど、お見舞いや施設訪問もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴など専用用紙に記入してもらい実態把握に役立てている。また、ご家族や友人・知人からの話も参考にし、カルテなど記載している。利用者本人からは日々の関わりの中でコミュニケーションを図り意思などの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の要望や意向などは日々の関わりの中から把握し、ご家族からの情報も参向にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し、アセスメント後に総合的なケアプランを作成。その後も言動や行動の様子観察に心掛けて全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にあたり、利用者のご家族の要望や意向を取り入れながら生活スタイルに合わせたケアプランを作成している。また、スタッフ間でカンファレンスやモニタリングを行い計画の作成なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌にバイタルや食事量、排泄回数、水分の摂取回数などを記載している。カルテにはその日1日の出来事を記載し申し送りノートも活用してスタッフ間での情報の共有に努めながら介護計画の見直しにも利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院など柔軟に対応している。また、外出などにも状況を見て柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は殆どないが周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの係りつけ医やご本人及びご家族等の希望を聞き決めていただいたり、往診や受診どちらかにされるかなどの希望や選択肢がない場合は、施設の近くの医院を紹介。主治医へは情報提供を行い適切な医療が受けられるよう努めている。また、必要に応じて認知症専門医への受診や眼科、整形外科、皮膚科、歯科への受診もご家族との相談のもと行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日々の気づきなどの申し送りやバイタルや食事量など記入してある日誌、気づきが記入してある個人ノートの確認など協働して健康状態の把握に努め支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は詳細な情報を提供し、入院時も医療機関やご家族と連絡を密に取って状態や状況の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めにかかりつけ医とご家族の意向を確認し、事業所として現状どこまでの支援ができるか検討し、主治医やご家族へ説明しながらその都度方針を決め、職員全体で話し合い方針を共有するように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時の対応もすぐに出来るようユニットカンファでも話し合っている。また、応急処置についてもどのように対処すべきかを話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練時に勉強会の実施や入居者・地域住民、スタッフ、消防職員、地域の消防軍団の方に参加していただき訓練を行うように取り組んでいる。また、防災のチェック表を作成し毎日点検している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であることを念頭におき対応するように努め、お部屋に入るときには一言声かけを行う、ケアの前に声かけをするなどプライバシーの確保を意識して取り組むようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中でどちらがいいか質問したりして好きなものや希望のものを選ぶように働きかけている。自己決定が難しい入居者の方には日常の様子や今までの生活歴を考えスタッフ間やご家族との話し合いで決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる日課は設定しているが、体調や気分など尊重し対応している。友人・家族の面会時には一緒にお部屋で過ごして頂いたり、ご希望がある場合はお食事と一緒に食べられたりご家族との外出も希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、本人の希望の衣類や好みに合った衣類を着ていただいたり、自己決定が困難な入所者には季節に合った衣服をスタッフが選び外出時や行事にもおしゃれができるように支援している。また、行事の時などお化粧品も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしの根切りを一緒に行ったり、季節に合った旬の食べ物を提供し、好きな食べ物を取り入れ献立に活かしている。個人に合った食事形態を提供している。また、スタッフも一緒に食事を食べ会話を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌、カルテに記入し、職員全員が把握できるようにしている。個人に合った食事形態を提供し、食器やスプーンなどもご本人が使いやすいものにし、水分も本人の好みに合わせて緑茶・麦茶・紅茶など提供し充分確保できるよう工夫して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者の能力に応じた口腔ケアを支援し、勉強会も開いている。また義歯の洗浄は義歯洗浄剤で毎晩行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の訴え時その都度トイレへ誘導しているが、訴えができない方は、排泄パターンを把握し時間誘導などでトイレ誘導を行い、日中はトイレ内での排泄を促し、布パンツやリハビリパンツなど適したものを着用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、オリゴ糖入り牛乳を提供したりその方がもようしやすい食べ物を日常探りご家族と相談したり、水分を多めに摂るよう声かけや介助を行っている。また、緩下剤については主治医の指示のもと服用しているが自然排便を心掛け支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴だが本人の体調や希望に合わせて柔軟に対応し入浴を楽しんでもらっている。また入浴を好まない入居者には無理強いせず極力入ってもらえるよう準備や介助の手伝いを行い、男性スタッフではなく、女性スタッフが対応するなど羞恥心への配慮も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなるまで好きなように過ごしてもらっている。また夜間はおむつの使用も行い安眠を重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの薬の全体把握は、薬手帳と服薬一覧を個人ごとにまとめていつでも目的や用法について確認できるようにし、飲み忘れや誤薬がないよう付箋箱を利用し日付と氏名を記入している。またいつまで残薬があるかホワイトボードで日付管理をし、毎日朝・昼・夕、食間、寝る前など服用する毎に専用箱にまとめるなど工夫している。ご本人の状態の経過や変化等に関する日常の記録は個人別のノートを利用しそれをもとに主治医に報告している。受診・往診記録も個別の用紙に記入し、変更事項についてもその都度目的や副作用、用法や用量について記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、料理の下ごしらえなどスタッフと一緒にご自分で出来る方はなるべくして頂き暮らしの中での自分の役割を見つけていただくなど自分らしく暮らせるよう支援し、月曜日は音楽レクリエーション・水・金曜日には予防体操を取入れ楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族へ外出や外泊の希望にそって出かけられるよう支援に努めている。また、自宅への外出やドライブの提案をし支援したり、天気がよく体調がいい日は外庭でおやつを食べ歌のレクリエーション、日光浴を楽しみ、ショッピングセンターへの買い物・外食を支援したり、花見へ出かけることも支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している入居者様もおられる。好きなものを一緒に買いに出かけるときは、お預かりしている預かり金を手渡し、支払いをして頂くなど支援している。管理している預り金については、定期的にご家族に報・連・相し領収書を渡して現金出納帳の確認をもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やお孫さんなどからハガキが送ってきた時は、プライバシーもあるので行き過ぎないように声かけしながらコミュニケーションがとれるよう支援している。電話で会話が難しい方についてはスタッフが間に入ってやり取りを行ったり、自由に電話を掛けてご家族と話をしたり、かかってきて話をされる入居者様もおられる。年賀状は毎年施設から1人1人の入居者様に出したりして日本の習慣などの支援も心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人の居室の前には月毎に季節を感じられるように飾り付けを行い、共用の空間にも花を飾ったり、お雛様や節句、月見など季節や習慣を大事に心掛け入居者様と出来るだけ一緒に準備して支援し、食事や旬のものや好きな食べ物昔食べていたものを取り入れるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は、皆さんで食事をしたりテレビをみたりとゆっくり過ごす時間が多いため、出来るだけ気の合う方同士の席になるよう全体の様子を見ながら配慮している。ゆっくり過ごしていただけるように食卓と同じ空間の中にソファや一人掛けのリクライニングもあり利用している。また、共有スペースにもソファや大きなテレビがありDVDを視聴したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に今まで使っていた馴染みの物を持ってきていただくように話をしているため、部屋も今まで居た場所の雰囲気を意識したり、好きな色や好きなものなどもご家族とご本人に相談しながら過ごしやすい環境に取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の表示が絵で表した案内板になっている。自室の電気の電源のON/OFFの区別を迷われる方などには印や文字で記入したり、車椅子からベッドへベッドから車椅子へ移る際に立ちやすいようにベッドにバーを取り付けたり足や手を打たないようにカバーを付けるなどの工夫も心掛けている。		